

令和4年度沖縄振興特別推進交付金
(市町村実施分)

事後評価結果
(総括表)

令和5年9月
沖縄県

沖縄振興特別推進交付金の事後評価について

事後評価の基本的な考え方

沖縄振興特別推進交付金は、沖縄の実情に即してよりの確かつ効果的に施策を展開するため、沖縄振興に資する事業を沖縄県が自主的な選択に基づいて実施できる制度として、沖縄振興特別措置法により創設されました。

本交付金を活用した事業の推進にあたっては、時代潮流や地域特性を踏まえた沖縄の優位性・潜在力を見極めつつ、事業が効果的・効率的なものであるか等を勘案して、事業の選択と集中を図るとともに、必要に応じて見直し・改善を行うことが必要です。

このため、沖縄振興特別推進交付金交付要綱において、各交付対象事業の成果目標を設定し、成果目標の達成状況について、これを公表するとともに、内閣総理大臣に報告することとされています。

事後評価の方法

今回の事後評価については、令和4年度分が700事業(令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業計画に掲げた705事業のうち、「遂行困難」5事業※¹を除く)、令和3年度分が59事業(令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業計画に掲げ令和4年度に繰越された61事業のうち、「事業中止」2事業を除く)、後年度・中期目標を設定した事業149事業(令和4年度を目標年度と設定した149事業)を対象に実施しました。

これらの対象事業ごとに設定された成果目標の達成状況について、共通のものさしとして、目標に対する実績値を達成率(%)に換算した上で、評価を行いました。

さらに、各事業単位で「検証シート」を作成し、PDCAサイクルによる取り組みの見直し改善や、さらなる効率化に向けた検証を行っています。

※¹「遂行困難」…事業計画策定後、事情変更により実施されず、交付金を活用しなかった事業。

【成果目標の評価の流れ】

1. 事業毎に設定した成果目標に対する実績値について、下記により達成率を算出する。

$$\text{達成率} = \frac{\text{当該年度の実績値}}{\text{当該年度の目標値}} \times 100 (\%)$$

※定性的な目標については、目標達成の場合は100%とし、それ以外は0%とする。

※1事業で複数の目標を設定している場合は、平均値を当該事業の達成率とする。

2. 算出された達成率に応じて、各事業毎に下記の評価基準により区分する。

「達成」 : 達成率が100%以上

「概ね達成」 : 達成率が70%以上100%未満

「一部達成」 : 達成率が70%未満かつ一部の目標値を達成している場合

「未達成」 : 達成率が70%未満かつすべての目標値を達成していない場合

令和4年度 評価結果について（市町村分）

令和4年度の沖縄振興特別推進交付金交付対象事業の成果目標の達成状況は、評価対象全700事業のうち、「達成」及び「概ね達成」が504事業（72%）、「一部達成」が49事業（7%）、「未達成」が87事業（12%）、「繰越」が60事業（9%）となっています。

R4 評価対象 事業数	評価			繰越*
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成	
700	504 うち達成 411 概ね達成 93	49	87	60
	72% ^{※※} うち達成 59% 概ね達成 13%	7%	12%	9%

※「繰越」・・・会計年度内(令和4年度)に使用し終わらなかった歳出予算の経費の金額を特別な事由があることにより特例的に翌会計年度(令和5年度)の歳出経費として使用することが認められたもの。なお、繰越事業については事業が完了した翌年度に事後評価を実施することとしている。

※※四捨五入等の関係で合計値に差がでることがあります。

【参考】令和3年度 評価結果

R3 評価対象 事業数	評価			繰越
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成	
633	398 うち達成 333 概ね達成 65	45	129	61
	63% ^{※※} うち達成 53% 概ね達成 10%	7%	20%	10%

約7割の事業について、成果目標を「達成」又は「概ね達成」しており、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる各施策の推進に寄与することができました。

令和3年度の評価結果と比較すると、「達成」及び「概ね達成」の割合は9ポイント増加、「一部達成」の割合は増減なし、「未達成」の割合は8ポイントの減少となっています。「未達成」の主な要因は新型コロナウイルス感染症拡大の影響となっています。（個別具体的には検証シートをご覧ください。）

沖縄県としては、本評価の結果を踏まえ、必要に応じ、事業規模や事業スキームの見直し等について市町村に助言を行うことにより、効果的・効率的な事業の実施、改善に繋げ、沖縄振興の取組を推進してまいります。

令和4年度事業評価結果一覧表（新・沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策別）

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策	評価対象 事業数	評価				繰越
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
第4章 基本施策						
将来像Ⅰ：沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して						
(1) 世界に誇れる島しょ型環境モデル地域の形成	27	16	5	0	1	5
(2) 自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用	10	6	1	1	0	2
(3) 持続可能な海洋共生社会の構築	1	1	0	0	0	0
(4) 沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展	42	21	8	2	7	4
(5) 悠久の歴史や伝統文化に育まれた魅力ある空間と風土の形成	12	8	2	1	0	1
計	92	52	16	4	8	12
将来像Ⅱ：心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して						
(1) 子どもの貧困の解消に向けた総合的な支援の推進	12	9	2	0	1	0
(2) 誰もが安心して子育てができる環境づくり	27	21	2	0	3	1
(3) 健やかな暮らしと安心を支える充実した医療提供体制の確保	15	10	2	0	1	2
(4) あらゆるリスクに対応する安全・安心な島づくり	20	10	1	1	3	5
(5) 高齢者・障害者等を支える福祉サービスとセーフティネットの充実	7	4	0	0	2	1
(6) 多様性を尊重する共助・共創社会の実現	2	0	1	0	0	1
(7) 高安全・安心・快適に暮らせる生活基盤の充実・強化	5	5	0	0	0	0
(8) 離島・過疎地域における安全・安心の確保と魅力ある生活環境の創出	18	15	1	0	1	1
(9) 米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題の解決	2	2	0	0	0	0
計	108	76	9	1	11	11
将来像Ⅲ：希望と活力にあふれる豊かな島を目指して						
(1) 県民所得の着実な向上につながる企業の「稼ぐ力」の強化	15	9	4	0	1	1
(2) 世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革	117	58	19	9	17	14
(3) デジタル社会を支える情報通信関連産業の高度化・高付加価値化	4	3	1	0	0	0
(4) アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成	5	1	0	1	3	0
(5) 科学技術イノベーションの創出と次世代を担う持続可能な産業の振興	0	0	0	0	0	0
(6) 沖縄の優位性や潜在力を生かした新たな産業の創出	5	4	0	0	1	0
(7) 亜熱帯海洋性気候を生かした持続可能な農林水産業の振興	43	23	5	3	5	7
(8) 地域を支える第2次産業と県産品の振興	6	4	0	1	1	0
(9) 世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成	43	25	5	4	3	6
(10) 島々の資源・魅力を生かし、潜在力を引き出す産業振興	28	11	7	3	4	3
(11) 誰もが安心して働ける環境づくりと多様な人材の活躍促進	17	10	5	0	2	0
(12) 持続可能な発展と県民生活を支える社会基盤の高度化及びネットワークの形成	2	2	0	0	0	0
(13) 駐留軍用地跡地の有効利用の推進	11	9	2	0	0	0
計	296	159	48	21	37	31
将来像Ⅳ：世界に開かれた交流と共生の島を目指して						
(1) アジア・太平洋地域の平和構築に貢献する地域協力外交の展開	10	8	1	0	0	1
(2) 沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成	11	6	3	2	0	0
(3) 世界の島しょ地域等との国際協力活動と国際的課題への貢献	0	0	0	0	0	0
(4) 離島を核とする交流の活性化と関係人口の創出	2	2	0	0	0	0
計	23	16	4	2	0	1
将来像Ⅴ：多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して						
(1) 多様な学びの享受に向けた環境づくり	30	20	0	3	5	2
(2) 「生きる力」を育む学校教育の充実	97	55	8	14	19	1
(3) 多様な能力を育て、力強く未来を拓く人づくり	44	27	7	4	6	0
(4) 人口減少に対応し、地域社会を支える人づくりと人材の確保	3	2	1	0	0	0
(5) 新たな価値を創造し、産業を牽引する人づくりと人材の確保	2	1	0	0	0	1
計	176	105	16	21	30	4
第6章 圏域別展開						
圏域別展開の基本方向						
(1) 圏域の特色を生かした産業の振興(跡地利用)	0	0	0	0	0	0
(2) 圏域の特色を生かした産業の振興(政策金融の活用)	0	0	0	0	0	0
(3) 圏域の特色を生かした産業の振興(自主財源の確保)	0	0	0	0	0	0
(4) その他	5	3	0	0	1	1
計	5	3	0	0	1	1
総計	700	411	93	49	87	60
割合(%)		59%	13%	7%	12%	9%

令和3年度繰越事業 評価結果について（市町村分）

令和3年度（繰越）の沖縄振興特別推進交付金交付対象事業の成果目標の達成状況としては、評価対象全59事業のうち、「達成」及び「概ね達成」が52事業（88%）、「一部達成」が2事業（3%）、「未達成」が4事業（7%）、「繰越」が1事業（2%）となっています。

R3（繰越） 評価対象 事業数	評 価			繰越**
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成	
59	52 うち達成 49 概ね達成 3	2	4	1
	88%※ うち達成83% 概ね達成5%	3%	7%	2%

※四捨五入等の関係で合計値に差がでることがあります。

※※「繰越」・・・会計年度内（令和4年度）に使用し終わらなかった歳出予算の経費の金額を特別な事由があることにより特例的に翌会計年度（令和5年度）の歳出経費として使用することが認められたもの。

【参考】令和2年度繰越 評価結果

R2（繰越） 評価対象 事業数	評 価			繰越
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成	
48	41 うち達成 39 概ね達成 2	4	3	0
	85%※ うち達成81% 概ね達成4%	8%	6%	0%

約8割の事業について、成果目標を「達成」又は「概ね達成」しており、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げる各施策の推進に寄与することができました。（新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）が令和4年5月15日付けのためR3は、沖縄21世紀ビジョン基本計画を適用）

沖縄県としては、本評価の結果を踏まえ、必要に応じ、事業規模や事業スキームの見直し等について市町村に助言を行うことにより、効果的・効率的な事業の実施、改善に繋げ、沖縄振興の取組を推進してまいります。

令和3年度(繰越)事業評価結果一覧表(沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策別)

沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策	評価対象 事業数	評価				繰越
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
第3章 基本施策						
将来像Ⅰ: 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切に作る島を目指して						
(1) 自然環境の保全・再生・適正利用	3	1	1	1	0	0
(2) 持続可能な循環型社会の構築	0	0	0	0	0	0
(3) 低炭素島しょ社会の実現	0	0	0	0	0	0
(4) 伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造	3	3	0	0	0	0
(5) 文化産業の戦略的な創出・育成	1	1	0	0	0	0
(6) 価値創造のまちづくり	0	0	0	0	0	0
(7) 人間優先のまちづくり	0	0	0	0	0	0
計	7	5	1	1	0	0
将来像Ⅱ: 心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して						
(1) 健康・長寿おきなわの推進	1	1	0	0	0	0
(2) 子育てセーフティネットの充実	2	2	0	0	0	0
(3) 健康福祉セーフティネットの充実	0	0	0	0	0	0
(4) 社会リスクセーフティネットの確立	7	5	0	0	1	1
(5) 米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題の解決	1	1	0	0	0	0
(6) 地域特性に応じた生活基盤の充実・強化	0	0	0	0	0	0
(7) 共助・共創型地域づくりの推進	0	0	0	0	0	0
計	11	9	0	0	1	1
将来像Ⅲ: 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して						
(1) 自立型経済の構築に向けた基盤の整備	1	1	0	0	0	0
(2) 世界基準の観光リゾート地の形成	21	15	2	1	3	0
(3) 情報通信関連産業の高度化・多様化	0	0	0	0	0	0
(4) アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成	0	0	0	0	0	0
(5) 科学技術の振興と知的・産業クラスターの形成	0	0	0	0	0	0
(6) 沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出	0	0	0	0	0	0
(7) 亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興	3	3	0	0	0	0
(8) 地域を支える中小企業等の振興	1	1	0	0	0	0
(9) ものづくり産業の振興と地域ブランド形成	1	1	0	0	0	0
(10) 雇用対策と多様な人材の確保	0	0	0	0	0	0
(11) 離島における定住条件の整備	3	3	0	0	0	0
(12) 離島の特色を生かした産業振興と新たな展開	7	7	0	0	0	0
(13) 駐留軍用地跡地の有効利用の推進	0	0	0	0	0	0
計	37	31	2	1	3	0
将来像Ⅳ: 世界に開かれた交流と共生の島を目指して						
(1) 世界との交流ネットワークの形成	0	0	0	0	0	0
(2) 国際協力・貢献活動の推進	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0
将来像Ⅴ: 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して						
(1) 沖縄らしい個性を持った人づくりの推進	0	0	0	0	0	0
(2) 公平な教育機会の享受に向けた環境整備	0	0	0	0	0	0
(3) 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	1	1	0	0	0	0
(4) 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築	0	0	0	0	0	0
(5) 産業振興を担う人材の育成	1	1	0	0	0	0
(6) 地域社会を支える人材の育成	0	0	0	0	0	0
計	2	2	0	0	0	0
第5章 圏域別展開						
圏域別展開の基本方向						
(1) 圏域の特色を生かした産業の振興(観光リゾート産業の振興)	0	0	0	0	0	0
(2) 圏域の特色を生かした産業の振興(地域リーディング産業の振興)	0	0	0	0	0	0
(3) 圏域の特色を生かした産業の振興(農林水産業の振興)	0	0	0	0	0	0
(4) その他	2	2	0	0	0	0
計	2	2	0	0	0	0
総計	59	49	3	2	4	1
割合(%)		83%	5%	3%	7%	2%

後年度・中期目標設定事業 評価結果について（市町村分）

後年度に効果が発現する事業及び総事業費が10億円以上の施設及び設備の整備を行う事業で、中期的な事業効果の目標年度を令和4年度に設定した事業について成果目標の進捗状況等を検証しました。

効果発現年度を令和4年度に設定している149事業の成果目標の達成状況は、「達成」及び「概ね達成」が103事業、(69%)、「未達成」が40事業(27%)となっています。

(R4検証) 評価対象 事業数	評 価		
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成
149	103 うち達成 77 概ね達成 26	6	40
	69 %※ うち達成52% 概ね達成17%	4%	27%

※四捨五入等の関係で合計値に差が出ることがあります。

【参考】令和3年度検証 評価結果

(R3検証) 評価対象 事業数	評 価		
	達成・ 概ね達成	一部達成	未達成
126	65 うち達成 51 概ね達成 14	4	57
	52 %※ うち達成40% 概ね達成11%	3%	45%

令和3年度の評価結果と比較すると、「未達成」の割合は17ポイントの減少となっているものの、新型コロナウイルス感染症拡大により、観光客数の減やアンケートの先送り等で成果目標が未達成となった事業が多い状況となっています。

沖縄県としては、本評価の結果を踏まえ、必要に応じて再検証等、事業完了後においても市町村に助言を行うことにより、効果的・効率的な事業の実施、改善に繋げ、沖縄振興の取組を推進してまいります。

【後年度・中期目標】沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧（沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策）

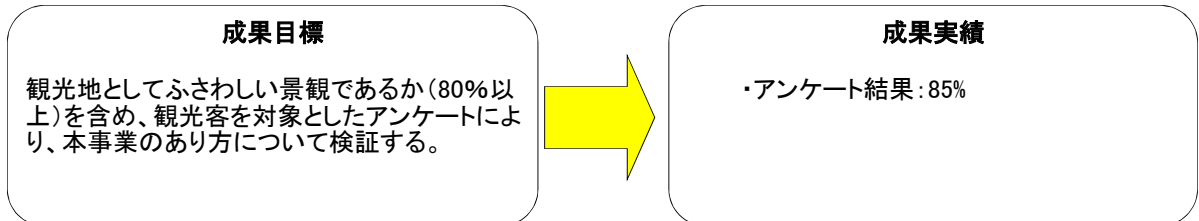
沖縄21世紀ビジョン基本計画基本施策	評価対象 事業数	評価				R5以降 効果発現
		達成	概ね達成	一部達成	未達成	
第3章 基本施策						
将来像Ⅰ：沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して						
(1)自然環境の保全・再生・適正利用	1	0	1	0	0	5
(2)持続可能な循環型社会の構築	0	0	0	0	0	0
(3)低炭素島しょ社会の実現	1	0	1	0	0	3
(4)伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造	18	13	2	0	3	8
(5)文化産業の戦略的な創出・育成	0	0	0	0	0	1
(6)価値創造のまちづくり	6	4	2	0	0	3
(7)人間優先のまちづくり	0	0	0	0	0	1
計	26	17	6	0	3	21
将来像Ⅱ：心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して						
(1)健康・長寿おきなわの推進	1	0	1	0	0	4
(2)子育てセーフティネットの充実	5	4	0	0	1	4
(3)健康福祉セーフティネットの充実	0	0	0	0	0	0
(4)社会リスクセーフティネットの確立	15	7	5	0	3	5
(5)米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題の解決	1	0	0	0	1	2
(6)地域特性に応じた生活基盤の充実・強化	0	0	0	0	0	0
(7)共助・共創型地域づくりの推進	4	2	0	0	2	0
計	26	13	6	0	7	15
将来像Ⅲ：希望と活力にあふれる豊かな島を目指して						
(1)自立型経済の構築に向けた基盤の整備	2	0	1	0	1	0
(2)世界基準の観光リゾート地の形成	45	21	5	2	17	25
(3)情報通信関連産業の高度化・多様化	1	0	0	0	1	0
(4)アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成	0	0	0	0	0	0
(5)科学技術の振興と知的・産業クラスターの形成	0	0	0	0	0	0
(6)沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出	2	1	0	0	1	0
(7)亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興	13	7	2	0	4	9
(8)地域を支える中小企業等の振興	1	0	0	0	1	4
(9)ものづくり産業の振興と地域ブランド形成	7	5	1	0	1	3
(10)雇用対策と多様な人材の確保	1	0	0	0	1	0
(11)離島における定住条件の整備	2	2	0	0	0	2
(12)離島の特色を生かした産業振興と新たな展開	6	3	1	1	1	4
(13)駐留軍用地跡地の有効利用の推進	7	5	2	0	0	2
計	87	44	12	3	28	49
将来像Ⅳ：世界に開かれた交流と共生の島を目指して						
(1)世界との交流ネットワークの形成	1	1	0	0	0	0
(2)国際協力・貢献活動の推進	0	0	0	0	0	0
計	1	1	0	0	0	0
将来像Ⅴ：多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して						
(1)沖縄らしい個性を持った人づくりの推進	1	0	0	1	0	0
(2)公平な教育機会の享受に向けた環境整備	3	1	0	1	1	0
(3)自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	0	0	0	0	0	1
(4)国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築	0	0	0	0	0	0
(5)産業振興を担う人材の育成	0	0	0	0	0	1
(6)地域社会を支える人材の育成	0	0	0	0	0	0
計	4	1	0	2	1	2
第5章 圏域別展開						
圏域別展開の基本方向						
(1)圏域の特色を生かした産業の振興(観光リゾート産業の振興)	1	0	0	1	0	1
(2)圏域の特色を生かした産業の振興(地域リーディング産業の振興)	1	0	1	0	0	3
(3)圏域の特色を生かした産業の振興(農林水産業の振興)	0	0	0	0	0	0
(4)その他	3	1	1	0	1	1
計	5	1	2	1	1	5
総計	149	77	26	6	40	92
割合(%)		52%	17%	4%	27%	

主な成果目標（指標）の達成状況及び今後の取組み方針等

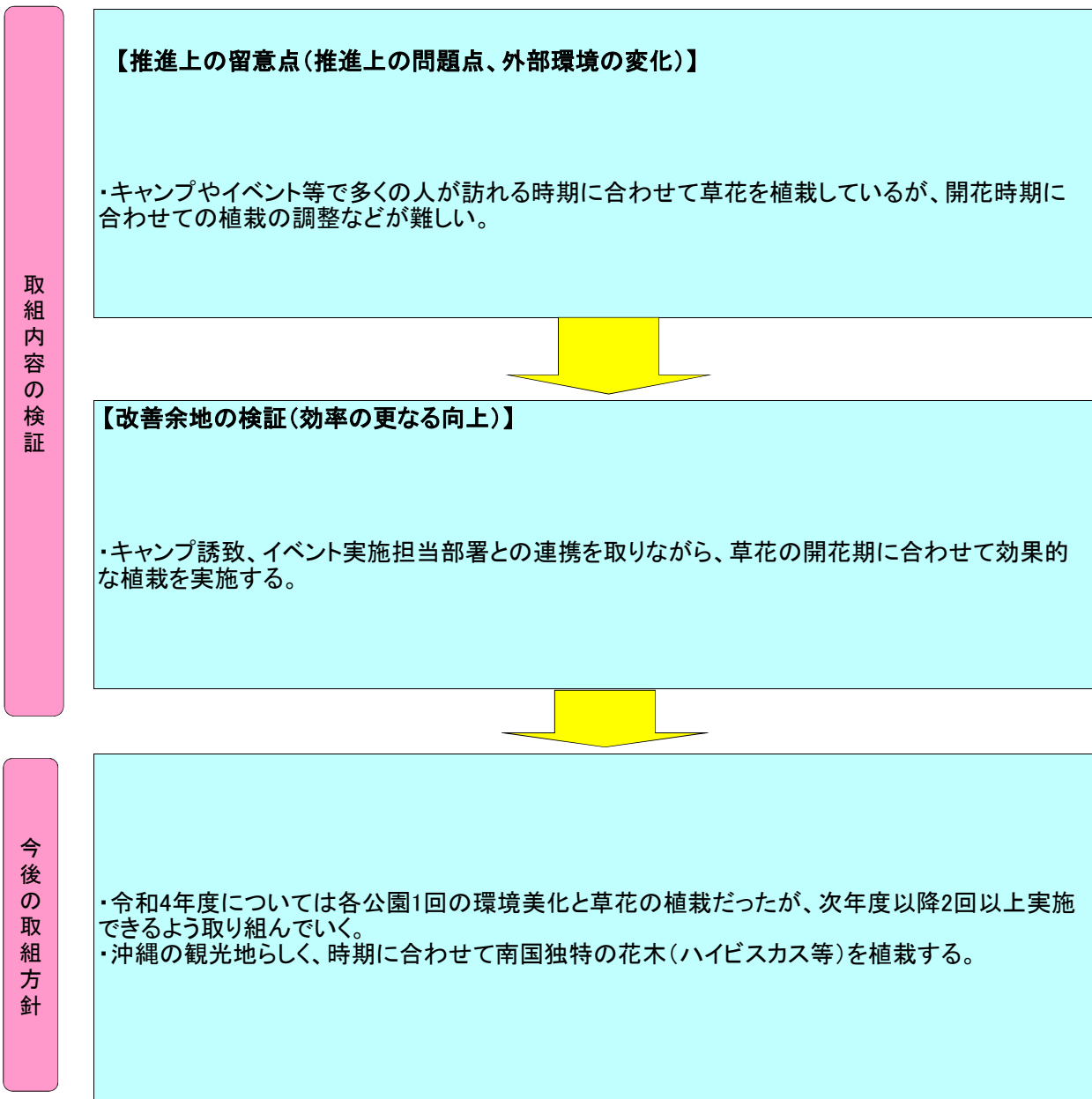
将来像 I：沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

観光地公園環境美化強化事業(糸満市):R4事業 「◎:達成」

観光地及びスポーツ観光の一層の充実を図るため、公園の環境美化清掃を行う。

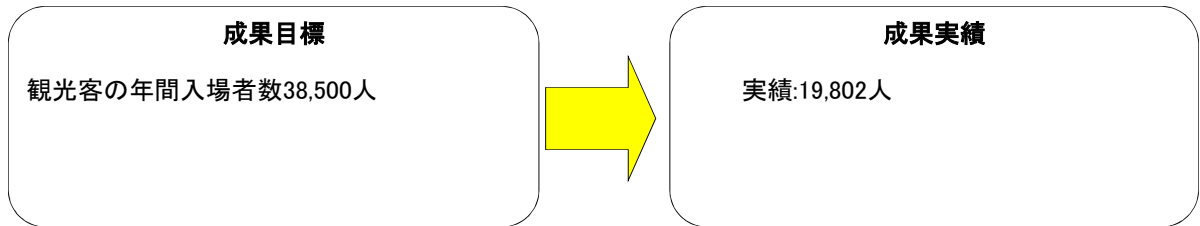


成果実績を踏まえ



ユンタンザミュージアム建設事業(読谷村):後年度事業 「未:未達成」

世界遺産座喜味城跡や村内歴史文化資源のガイダンス機能を拡充し観光振興を図る。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・ウィズコロナ、アフターコロナの人の動きに期待し、座喜味城跡・ユンタンザミュージアムを合わせた多言語対応パンフレットを作成。ユーチューブショート動画を作成し配信したことで、集客増につながったと考える。
- ・前年度と比較し集客増となったが、コロナ感染拡大防止のための人流制限等の影響により成果目標値を下回るようになったと考える。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を引き続き注視しつつ、状況に応じた取り組みを行う必要がある。

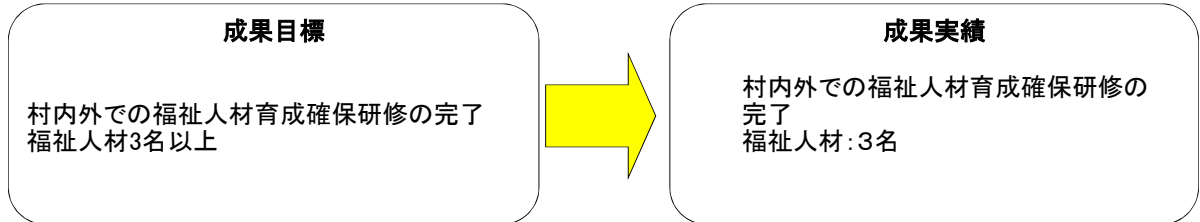
今後の取組方針

- ・ウィズコロナ、アフターコロナ時に多くの方に利用していただけるよう、多言語に対応したパンフレットの作成SNS等への動画配信を行うなど、来訪者増に向けた取り組みを行い、認知度・知名度の向上を図る。

将来像Ⅱ：心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して

福祉従事者人材育成事業(伊平屋村):R4事業 「◎:達成」

村内の介護事業所の改革や研修実施、収益改善など効率化構築作業を行い、また、施設管理者向けのマネジメント等、施設改善に繋げ、維持向上を行う。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

(利用者・介護従事者の満足度)

・本年度(令和4年度)より取り組んだ介護事業の改善により、業務上抱えている問題点を適宜、助言・指導を実施することで介護従事者の業務に対するモチベーション向上に繋がり、結果、職員側より介護初任者研修の実施希望の声が上がり実施に繋がったこと。更に、利用者のニーズに寄り添ったサービス展開を行うことで利用者・職員間の信頼関係が向上したこと。並びに施設管理を受託している社会福祉協議会に於いても職員目線の経営(休日の提案など)改善など行うことで、利用者・介護従事者双方で利用しやすい環境構築ができたことが目標値達成の要因と考えられる。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

(利用者・介護従事者の満足度)

・介護従事者の資格取得の為に介護職初任者研修の開催が年度末になったことで、介護従事者の受講スケジュールがタイトになったこと。

今後の取組方針

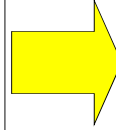
・今後は、同受講スケジュールを前倒し且つゆとりあるスケジュールで実施させることで高いモチベーションを維持した状態で受講できる環境を提供し、介護の質を高める。

子育て環境整備事業(北大東村):R3年繰越事業 「◎:達成」

子ども達が安全に遊べる遊具を整備することで、子育て世代の満足度を向上させる。

成果目標

子どもが安全に遊べる環境が整備されたか(80%以上)、保護者へのアンケート調査により本事業のあり方を検証する。



成果実績

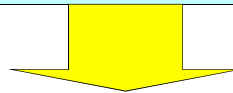
アンケート結果:100%

成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

・北大東島で子どもが遊べる遊具等を有した公園がなく、子育て世代を含む人口流出が大きな課題であった。



【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

・子育て世代等の流出を防ぐために要望があった子どもが安全に遊べる遊具等が必要である。



今後の取組方針

・引き続き、子どもが安全に遊べる環境を整備し子育て世代等の、ニーズを調査しながら住みやすい環境を引き続き整備していく。

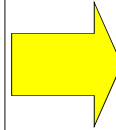
将来像Ⅲ：希望と活力にあふれる豊かな島を目指して

企画展開催事業(宜野湾市):R4事業 「◎:達成」

市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。

成果目標

企画展1本あたりの平均入館者数:1,470人以上



成果実績

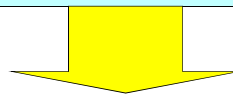
企画展1本あたりの平均入館者数:1,490人以上

成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・「山田真山展」では、宜野湾市内で平和祈念像原型を作成した山田真山の業績を紹介し、また「市制施行60周年記念展」では、かつての宜野湾の様子を伝えた。これらの展示をとおして、かつての様子を知っている世代と、新たに知る世代の様々な年齢層に参観を促したことで目標を達成することができた。
- ・コロナ禍でも企画展に直接来ていただけるように衛生面に配慮し、換気やアルコール液の設置など感染拡大防止策を講じた。



【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

- ・展示資料を見るだけでなく、触れることのできるレプリカ資料も展示し、来観者が各資料の持つ背景をよりイメージしやすいような展示内容を検討する。
- ・コロナ禍の状況をみながら、引き続き、換気やアルコール液の設置をしつつ、コロナ禍以前の状況に戻した事業展開を試みる。

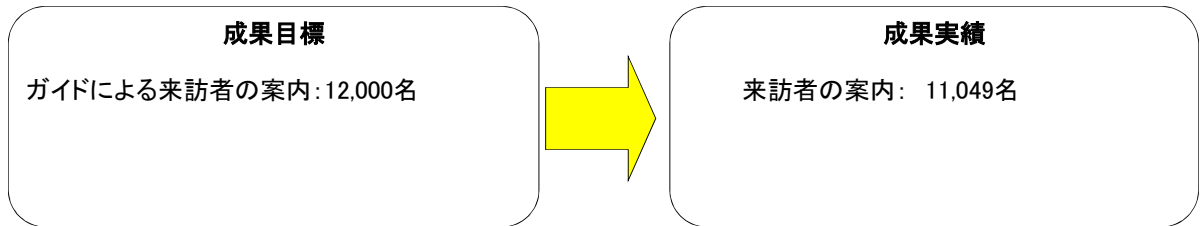


今後の取組方針

- ・交付金を活用して展示資料作成業務を行い、対象となる企画展に係る展示資料(レプリカ)を作成し、その資料を企画展にて展示する。
- ・コロナ禍の状況を注視し、可能な範囲で入場制限や講座等の定員制限を緩和した取り組みを行う。

今帰仁城跡ガイド強化事業(今帰仁村):R4事業 「〇:概ね達成」

今帰仁城跡における無料案内ガイドの実施、及びガイド内容の質向上を図るため、講演会・研修会を実施する。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

・令和4年度の年度後半は、修学旅行や一般の団体客が入り始めたが、まだ大幅な増加は無く観光の需要が高まっておらず、全体の来場者数はコロナ前(R元年以前)に比べると7割に達していないため、その影響で成果目標が未達成となったと考えられる。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

・来場者数が増加することで無料案内ガイドの利用者も増えると考えられるので、学ぶ会HP上でも取り上げる等来場者数の増加に向けて取り組む。

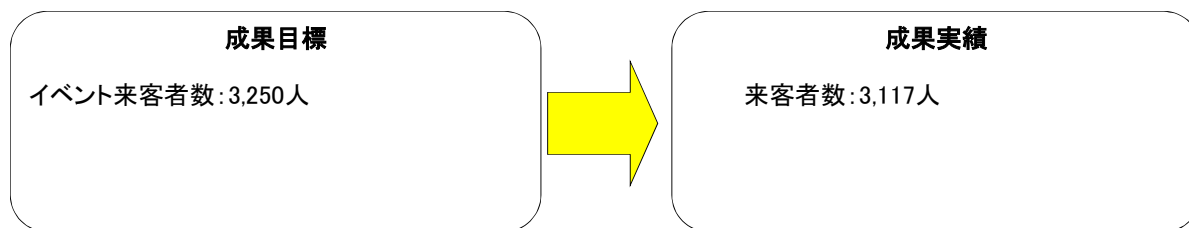
・これまで村主催の「ガイド養成講座」もしくは「歴史文化講座」の受講修了者に対して、ガイド登録を行っていたが、高齢化問題への対策が急務となってきたため、新規ガイド希望者について、長期経験者によるサポート教育を行っていく。

今後の取組方針

・令和5年度も引き続き講演会や研修会を通して、ガイド内容の質向上と各々の更なるスキルアップを図る。

ヒーローのまちづくり事業(南風原町):R4事業 「〇:概ね達成」

本町の観光振興及び地域活性化のため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信イベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響が年度後半まで続き、イベント開催時期の変更を余儀なくされ、またその後も寒波の影響でイベント参加者が少なく、イベント来客者数の目標人数に届かなかった。
- ・国内向けに、リーフレット等を作成してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も少なくなりインバウンドも増えていることから、その対策も必要となってくる。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

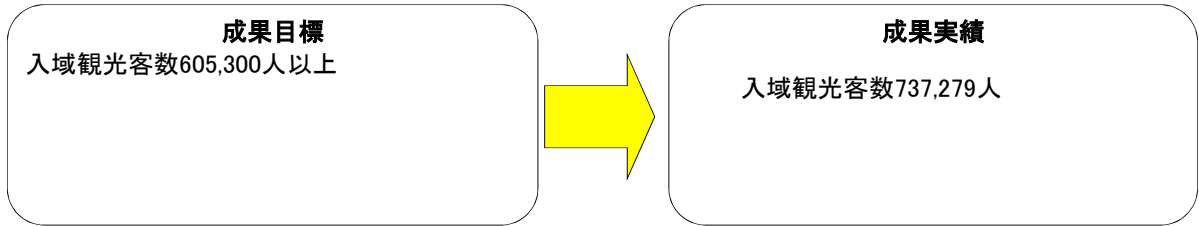
- ・イベント開催について感染症等の状況も含め、効果的な時期を再検討し、イベントの集客に努める。
- ・これまでの国内向けリーフレット等(日本語)を外国人に対応する必要がある。

今後の取組方針

- ・イベント開催時期を真夏や真冬でなく10月など過ごしやすい時期に開催する。
- ・リーフレットについて英語版を作成し、南風原町観光協会のホームページ等でPDF化したものを掲載する。

持続可能な観光地域づくり推進事業(宮古島市):R4事業 「◎:達成」

宮古島市観光推進協議会による観光マネジメントを行い、官民連携して地域住民・環境に配慮した持続可能な観光地域づくりを推進する。



成果実績を踏まえ

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・航空路線についてはコロナの行動制限の緩和のタイミングにおいて、各種PR活動を行ったことや全国旅行支援等の制度もあり、好調な回復を見せたが、次年度以降の海外旅行への需要増加による国内旅行の需要動向及び全国旅行支援終了後の動向を注視する必要がある。
- ・観光マネジメント業務において、各種観光問題、特にコロナ禍において人材等が流出したことによる人材不足の課題が浮上した。

取組内容の検証

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

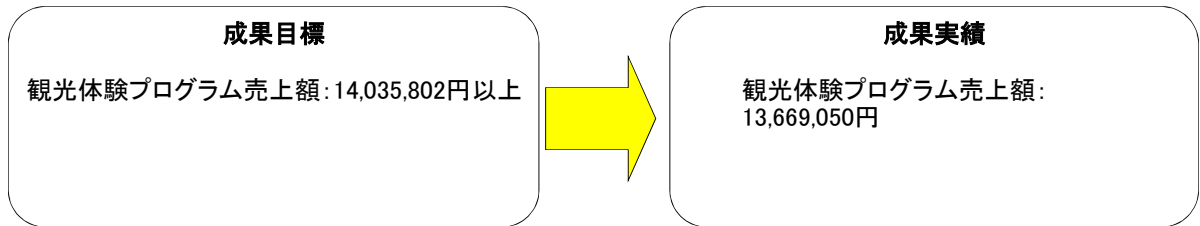
- ・国内旅行の誘客に向けた国内PRイベントや海外からの渡航増に向けた国際PRを実施していく必要がある。
- ・観光マネジメント業務にて、人材不足等の課題について、官民で議論し、課題を共有し、今後連携して対策していくこととした。

今後の取組方針

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行する予定であることを受けて、令和5年度からはアウトバウンド・インバウンドとも需要が復活していくことを予想されるため、国内外のイベントともプロモーションの方法やタイミングに配慮し実施していく。
- ・人材の季節ごとの需要と供給のバランスをとる仕組み等について、他部署と連携して検討していく。
- ・観光マネジメント業務で共有した課題の解決に向けて、関係各部署と連携し事業を実施する。
 - 令和4年度に実施したサウンディング結果及びテラスビジネスの専門家の意見を踏まえた伊良部牧山公園の整備方針の決定
 - 宿泊税の導入に向けた事業者説明会等の実施
 - 人材不足等新たな課題や、年間入域観光客数200万人の目標数の妥当性等の検討も含めた受入キャパシティの評価

体験交流型観光商品開発販売促進事業(久米島町):R4事業 「〇:概ね達成」

観光関連商品の売上増加を図るため、観光体験プログラムの販売促進及び民泊受入体制の整備・強化を行う。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

・全国旅行支援や教育旅行の再開があり比較的誘客の増加が図られたものの、各種プログラムに満遍なく受け入れることができなかつたことが目標を下回った主な要因である。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

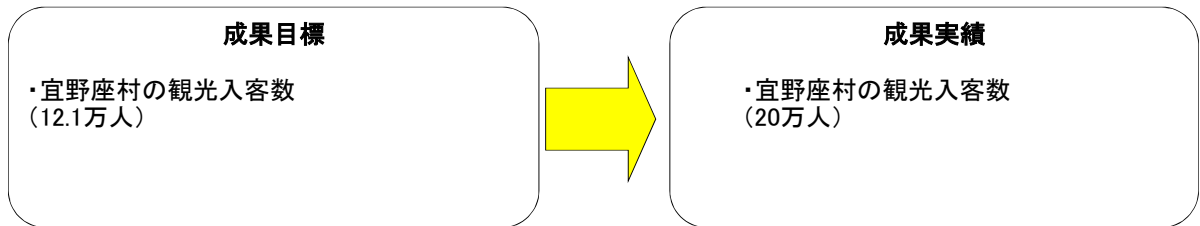
・各体験プログラムの参加数に偏りがあるため、満遍なくガイドへの収入に繋げる必要がある。また、民泊受入家庭の高齢化により負担が大きくなっていることから対策が必要である。

今後の取組方針

・各体験プログラムに満遍なく参加者が集まるようより偏りのないプロモーションを行う。また、民泊の受入家庭における課題を整理し、現在の受入家庭を維持しつつ、新たな受入家庭の開拓に取り組む。

宜野座村着地型観光誘客推進事業(宜野座村):R4事業 「◎:達成」

宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通じたイベントの開催、観光人材の育成等を行う。



成果実績を踏まえ

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

今年度は全ての事業を実施することができ、プロモーション活動では新たな取り組みであるデジタルスタンプラリーでのPR周遊の展開が、本村に訪れる観光客が増えた要因の一つと考えられる。

人材育成事業については、コロナ禍の影響を受け実施回数が若干予定を下回ったが、8割は行うことができたので達成したと考えられる。

取組内容の検証

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

プロモーション会場の選定についてのブラッシュアップやテーマ事のプロモーションイベントに参加し、地域の強みが更に引き立てられるプロモーションの検討。その他にもYouTubeチャンネルを有効活用したプロモーションや「行きたい・来たい」と思えるGINOZAブランドの更なる構築を目指す。

今後の取組方針

- ・来場者アンケートを分析し、新規来場者を獲得するためのアプローチ方法を検討するとともに、イベント内容の充実を図り来場者数の増加に取り組む。

- ・中城村文化協会や各芸能団体の活動を継続させるため、各種助成や演舞等を発表できる場を創出に協力し各団体の会員増に繋げるとともに、イベントの検討段階から参加してもらい、イベント開催の意欲向上を図る。

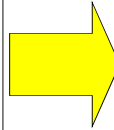
将来像Ⅳ：世界に開かれた交流と共生の島を目指して

うるま市島しょ地域振興事業(うるま市):R4事業 「◎:達成」

離島を支える産業振興体制の構築とコミュニティ経済の振興に向け、多様な人材の関りにより産業振興・地域経済の活性化を図る。

成果目標

- ・地域への滞在者(世帯数):15世帯
- ・プロジェクト創出件数:5件



成果実績

- ・地域への滞在者(世帯数):15世帯
- ・プロジェクト創出件数:5件

成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・ツアー参加者が本ツアーをきっかけに、高い割合で移住に対する行動変容を起こしている。
- ・事業開始が6月からであったため、子育て世帯が来やすい夏休みの時期にツアーを組むことができず、募集期間も短かった。
- ・地域課題解決は1度きりの短期間で解決できるものではないため、継続的な関係性の構築が課題となる。



【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

- ・4月に受託事業者と契約を交わし、事業実施期間を伸ばし、ツアー参加募集期間にゆとりをもつ。
- ・応募者を増やすために、周知媒体として市のHPや市公式LINE、移住関係サイト等を活用する。
- ・ツアー参加者からは仕事や住居があれば、すぐにでも移住したいとお声はいただいているが、島しょ地域にはすぐ住める「空き家」がないこと、移住したい人と島しょ地域にある仕事のマッチングがなかなか進まないことから、島しょ地域への移住に繋がらない世帯もあった。



今後の取組方針

- ・子育て世帯が参加しやすいよう、児童館やファミリーサポートセンターと子どもの受け入れ体制を調整し、実施する。
- ・「空き家」の情報や「求人情報」を収集する。
- ・地域から創出されたプロジェクトを解決するために島外の方に協力していただき、滞在期間終了後も継続的に関わってもらえることを目標に地域とツアー参加者の密なコミュニケーション体験を目指す。
- ・島しょ地域ならではの魅力を伝え、「うるま市島しょ地域」に関心を持ってもらえるリーフレットや動画の媒体を制作する。

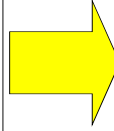
将来像Ⅴ：多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して

スクールソーシャルワーカー配置事業(豊見城市):R4事業 「◎:達成」

問題を抱える児童生徒を取り巻く環境改善のため関係機関とのネットワーク構築を図るためスクールソーシャルワーカーを配置し、環境改善に向けた支援を行う。

成果目標

支援対象ケース改善率: 48.4%以上
(改善ケース件数/支援対象ケース件数)



成果実績

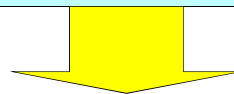
支援対象ケース改善率: 70.6%
(改善ケース件数/支援対象ケース件数)

成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

・年々、不登校児童生徒への支援対象件数も増加傾向にあり、個々のアセスメント(見立て)と連携強化が重要となっており、引き続き支援体制を維持していく必要がある。



【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

・スクールソーシャルワーカーを継続雇用し、長引くケースへの支援継続を図る。
・多種多様なケースに対応するため、スクールソーシャルワーカーの質向上に向けた研修などの機会を設けることを検討する。

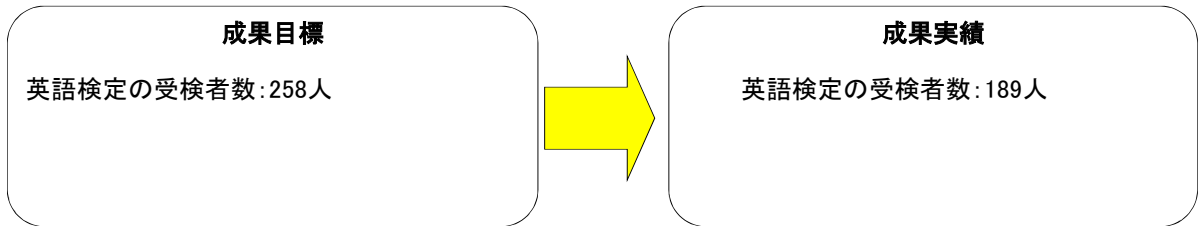


今後の取組方針

・支援対象件数が増加傾向にあることから、児童・生徒、家族の抱える問題に対するアプローチを学ぶ研修会や、庁内関係部署との情報共有を図り、スクールソーシャルワーカーが活動しやすい環境を整えていく。

総合英会話指導支援事業(北中城村):R4事業 「〇:概ね達成」

外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図るため、児童生徒の英会話への興味・関心を高められるよう、村立小中学校に英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師を英会話指導員として配置する。



成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・中学校では、継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、英語への興味関心の高さは維持できている。また、英語検定に関する周知は行ったが、以前より基礎知識の定着が低くなっていることが自己肯定感の低下に繋がっており、受検意欲も低下し、過去10年間で最も低い全生徒の約35%の受検率となった。
- ・小学生では、「英語の授業が楽しいと感じる」児童は91.8%となっており、関心興味の高さは維持されている。また、「英語検定等を受検してみたいと思う」児童は60人程度おり英語への関心の高さは伺えるが、周知や受検機会の創出が不十分なことから今年度も英語検定Jrの受検者が0人であった。
- ・小学校、中学校併せると、ALTとの授業を受ける事で98%の児童生徒が英語に関する意欲が高まっている。

【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

- ・英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行うことが個々の指導力の向上に繋がることから、情報交換等の時間を明確に確保するよう促す。
- ・引き続き、小学校においては、5・6年生は教科としての外国語、3・4年生は外国語に慣れ親しみ外国の生活や文化に触れる機会を与える外国語活動と英会話を関連付けながら興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業により、更に興味・関心の向上に努める。
- ・英検Jrは、学校主体で行うため、教職員の負担にならないような実施方法を検討する。

今後の取組方針

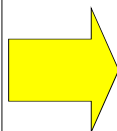
- ・小学校では、ALTとの交流を通して、児童の発達段階にふさわしい歌・ゲーム・簡単な挨拶やスキット、音声を使った体験的な活動等を行い、高学年ではコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。
- ・中学校においては、コミュニケーション活動を重視したALTとのチームティーチングやグループワーク等の指導形態及び指導方法の工夫・改善を積極的に行い、英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・英語担当教諭と英会話指導員の授業力向上を目的とした研修会を実施することで、児童生徒の英語力向上に努める。

演奏活動推進事業(金武町):後年度事業 「△:一部達成」

演奏活動を通して地域活動に児童・生徒が積極的に参加できるように、活発に吹奏楽部の活動を行っている小中学校に吹奏楽楽器を整備する。

成果目標

- ・生徒が演奏活動を行った地域行事等への総来場者数7,000人以上
- ・楽器整備後に地域行事で演奏活動をしたことにより、地域への関心が高まった割合(80%以上)を含め、児童・生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。



成果実績

- ・総来場者数230人
- ・アンケート結果:100%

成果実績を踏まえ

取組内容の検証

【推進上の留意点(推進上の問題点、外部環境の変化)】

- ・琉球交響楽団とのコラボ演奏を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席を制限した影響もあり目標の数値を達成できなかったと考える。



【改善余地の検証(効率の更なる向上)】

- ・児童や生徒が地域行事に参加し、町民に演奏を鑑賞する機会を作ることで、来場者の数値を上げていく必要がある。



今後の取組方針

- ・金武中学校吹奏楽部のみならず、金武小学校の吹奏楽部も積極的に地域行事(まつりの出演など)に参加できるように促す。また、学校と教育委員会で連携し、町内で行われる各種行事の情報提供及び状況共有を行う。